

# 全力結集

1月15日に開催された第4回「和牛甲子園」。  
山形県からは「山形県立村山産業高等学校」が初出場し、  
取組評価部門でみごと優良賞を受賞することができました。  
同校が初出場するまでの取り組みと関係機関のサポートをご紹介します。

## JA全農北日本くみあい飼料株式会社

### 未来を担う人材育成に 関係機関が一丸となる

第4回「和牛甲子園」に山形県から初出場した「山形県立村山産業高等学校」。出品牛は、2018年10月3日に村山産業高校で生まれ、「景満」号と命名されました。血統は父が「満開1」号で山形県種雄牛でした。山形県内の肉牛生産は長期肥育が特徴の1つですが、このたびの出場へ合わせた早期出荷



賞状と副賞を手に、受賞を喜ぶ村山産業高校の皆さん

(27カ月齢)を目標とした初挑戦となりました。

「景満」号は、山形県農業総合研究センター畜産研究所による超音波診断で肉質検査を隔月に実施し、全農クリニック北日本分室は単月で採血検査を行いました。その分析データに基づき、全国農業協同組合連合会山形県本部と当社は、給与メニューの提案や飼養環境の改善などを随時検討、サポートを行いました。

20年7月には座学による研修会を実施しました。全農山形県本部からは「枝肉の見方」について、山形県農業総合研究センターからは「肉牛生産システム」として育種価や血統について、当社からは「肥育後期の飼料給与体系と飼養管理」についてなど多様なテーマでの開催となりました。そのほかにも(株)山形県食肉公社では枝肉を見ながら研修し、山形最上子牛市場にて子牛の競りの様子を見学するなど、学内外での研修も実施しました。また、山形県農業総合研究センター畜産研究所において、「景

満」号の胃液を採取しておいを嗅いだり、pH濃度を測定したりと実習も行われました。

### 出品牛の飼養中に起きた 問題と対応策

「景満」号の飼養中には、問題も発生しました。まず、20年夏には飼料摂取量が落ちました。この原因として大きく3つが考えられました。

#### ①例年になくサシバエの大量発生

きれいな環境に慣れていた「景満」号がサシバエの影響でストレスを感じた事が、飼料摂取量の落ちた要因と考えられました。村山産業高校では、サシバエ対策として蚊帳の設置やハエ取り紙の設置を行い、生徒自身でハエ叩きなども用いて飼育環境改善へ取り組みました。

#### ②猛暑による影響

週1回の水浴びを実施してストレスを軽減させました。

#### ③角による影響

除角を行わなかったため飼槽や飲水環境で角が採食等の妨げとなり、満足に摂取ができなかった事



①出品牛から採取した胃液を嗅ぎpH濃度を体感 ②水浴びをさせる学生たち ③枝肉見学の様子 ④ハエ取り紙を設置し、サシバエ対策 ⑤⑦エコー検査で体内を確認 ⑥食べやすいように給餌箱を改良 ⑧研修会の様子



も影響していました。角の影響をなるべく受けられないよう給与飼料の種類に合わせて飼槽の改良を行い、給水器周辺も同様に改善し環境を整えました。その結果、1日の飼料摂取量が回復し、体重も順調に右肩上がりとなりました。

しかし、20年10月中旬、次に「景満」号を待ち構えていたのは食い止まりです。血液分析結果ではビタミンA血中濃度値や肝機能数値が大幅に下がっており、残暑の影響も相まって身体に負担がかかっている状況でした。対処方法としては、無事に飼養管理できる事を最優先として、ビタミン剤の筋肉注射と強肝剤の経口投与をしてコンディションの回復を促しました。その結果、11月には飼料摂取量が回復し、「和牛甲子園」出品まで順調に育てる事ができました。

### 初出場で取組評価部門の 優良賞を受賞

第4回「和牛甲子園」は、新型コロナウイルス感染症の影響により初のオンラインでの開催となりま

した。初出場である同校は、7年前に農業高校と工業高校が統合した学校であり、今回の和牛甲子園への取り組み内容でも工業系の生徒と連携した形が評価され、生徒・先生の積極的な取り組みが実を結んだと感じています。また高校生とともに、みちのく村山農業協同組合をはじめ山形県農業総合研究センター畜産研究所、全国農業協同組合連合会山形県本部、全農クリニック北日本分室の関係者が一丸となり、それぞれの専門分野を結集する事で、出品牛を立派に仕上げる事がサポートできたと実感しています。

村山産業高校の「和牛甲子園」への取り組みは、TV番組にも取り上げられました。メディアを通じて県内はもちろん、県外の畜産関係者の皆さまへの良い刺激にもなりました。

今後においても、JAグループの結集力を更に高めると同時に、将来を担う人材の育成と肉用牛経営の発展に少しでも寄与できればと願っています。